

うらしまたろう

"URASHIMA TARO"

絵本は英語と日本語の
二ヶ国語で楽しめます



おはなしCDつき
英語・日本語の二ヶ国語収録
(日本語: 約15分 / 英語: 約12分)

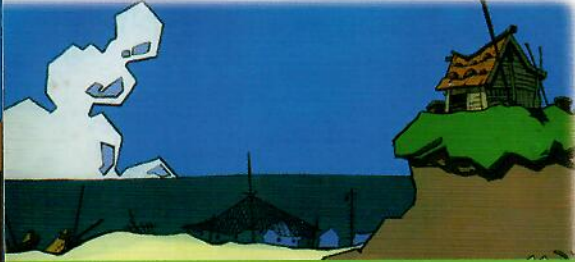


むかしむかし、あるうみべの村に
うらしまたろうというわかものが
すんでいました。

たろうのしごとは、りょうしです。

たろうは、毎日、毎日、あさ早くから
ふねをこいで、うみにては、さかなを
とってらしておりました。

空もようによって、ふりょうの日も
ありましたが、それでも天気の良い日には、
かごいっぱいさかながとれます。

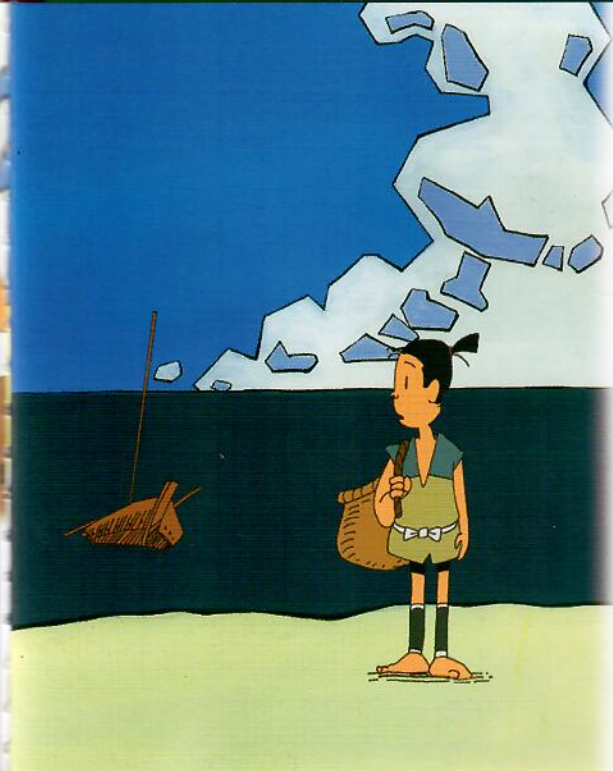


たろうは、つかまえてきたさかなを
うっては、ほそぼそとせいかつして
いたのです。

Once upon a time, there lived a young man named Urashima Taro in a village near the sea. Taro worked as a fisherman. Day in and day out, Taro went out to sea in his rowing boat to catch fish in order to make a living.

Depending on the weather, the catch could be poor on some days but when the weather was fine, he was able to catch a basketful of fish.

Taro would sell the fish he caught to make a scanty living.

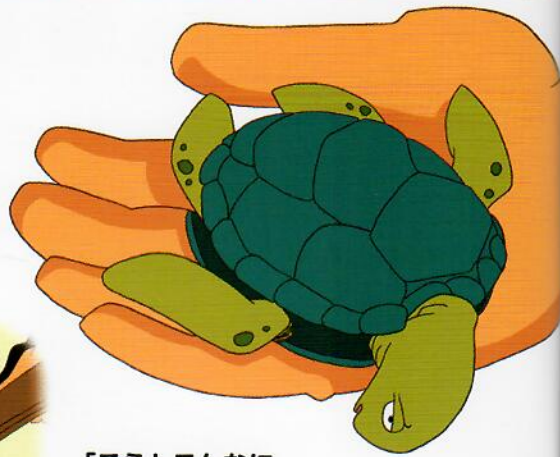


ところが、ある日のこと。
たろうがりょうにでてみると、
さかなが**いっ**びきもつれません。
「こんな**てんき**の**いい**日に
ふしぎな**こと**もあるものだ！」
たろうは、**はや**とりょうをきりあげ、
はまへと**かえ**ってきました。
すると、そこでは、**むら**の**こ**どもたちが
わをつくって、ワイワイと
さわいでおりました。

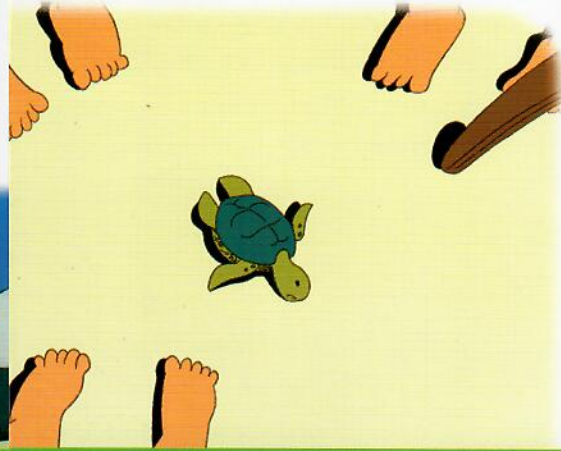


But one day, when Taro went to sea, he could not catch a single fish.
“How strange, with the weather as fine as this.”
Taro gave up early and returned to shore.
There he found the village children gathered in a circle making a lot of noise.

なんだろうとおもって、
たろうがちかづいてみると、
子どもたちが子がめを
いじめているのが見えました。
子がめは、子どもたちにいじめられて
ぐったりしています。



「こら! こんなに
小さなかめをいじめたらだめだろう!」
それをかわいそうにおもったたろうは、
子どもたちをしかりつけると、
子がめをいえにつれてかえり、
かんびょうしてやることにしました。



Wondering what was going on, he looked more closely, he saw that the children were tormenting a baby turtle.

The baby turtle was exhausted by the children's torment.

"Hey, you kids! You mustn't be mean to a small turtle like this"

Taro felt sorry for the baby turtle and scolded the children.

He decided to take the baby turtle home to nurse it.

たろうの かんびょうの かいも あって、その よくじつ、
子^こがめは すっかり 元^{げん}氣^きに なりました。

たろうは、りょうの ついでに
子^こがめを おきまて つれて いって やると、

うみへ はなして あげました。

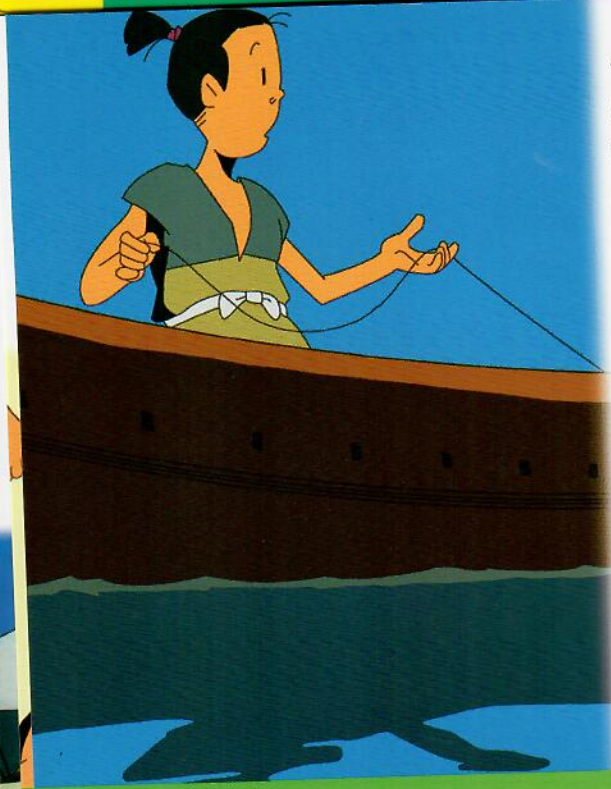
子^こがめは うれしそ^なうに 元^{げん}氣^きよく およぎだすと、
やがて うみの中^{なか}へと きえて いってしまったのです。



With Taro's nursing, the baby turtle was fine the next day.

Taro took the baby turtle to the shore on his way to sea and freed it into the sea.

The baby turtle started to swim happily and after a while, disappeared into the sea.



それからいく日かすぎたある日の
ことです。たろうがいつものように
おきでりょうをしていると、
どこからかこえがきこえてきます。
「たろうさん!うらしまたろうさん!」
こんなうみのまんなかでだれだろうと
たろうは、ふしぎにおもいました。
すると、また、たろうをよぶこえが
きこえてきます。



Several days passed.
Taro was out on his boat fishing as usual when he heard a voice from somewhere.
“Taro. Mr. Urashima Taro.”
Taro thought it strange to hear a voice in the middle of the sea.
But again he heard the voice calling him.

どうやら その こえは、
うみの ほうから きこえて くる ようです。
たろうが、ふねから みを のりだし、
かいめんを ながめると、
そこには、^{いっ} ^{おお} びきの 大きな うみがめの
すがたが ありました。
「たろうさん。うらしま たろうさん！」
おおがめが たろうの ^な 名を よびます。
たろうは、おどろきながら、
うみがめのはなしを ききました。



The voice seemed to be coming from the sea.

When Taro leaned out of his boat to gaze at the surface of the sea, he saw a large sea turtle there.

"Taro. Mr. Urashima Taro." The large turtle was calling Taro's name. Taro was very surprised but listened to what the sea turtle had to say.



「わたしは、りゅうじんさまのつかいです。あなたに たすけていただいた 子がめは、りゅうくうじょうの ものでした。おれいにりゅうくうじょうへ おつれ いたしましょ
どうぞ、わたしの せなかにおのり ください!」

「りゅうくうじょう?」

「はい。それは、それは、うつくしい ところですよ!」

うみがめの さそいに、たろうは いわれる まま、かめの せなかへと のりました。

"I am a messenger from the Dragon King of the Sea. The baby turtle you saved was from the Palace of the Sea Dragon. I have been ordered to bring you to the Palace of the Sea Dragon to repay you for your kindness. Please get on my back."

"Palace of the Sea Dragon?"

"It is a very, very beautiful place."

Taro did as he was asked and got on the turtle's back.



「ざばんっ~!!!」

たろうをせなかにのせたかめは、ざばんと水^{みず}しぶきをあげながら、
うみの中^{なか}へともぐっていきます。

おおがめがきゅうにうみの中^{なか}へもぐったのでたろうはあわててかいめんへかおを
だしていきをしよとしました。

しかし、おおがめにひきずられるようにうみの中^{なか}へとしずんでいってしまいました。

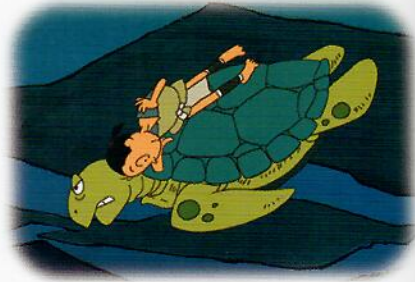
“Splash!” The turtle with Taro on its back splashed into the sea and began to dive.
With the large turtle diving into the sea, Taro frantically tried to put his head above the
water to breathe.
But he sank into the sea, pulled along by the large turtle.



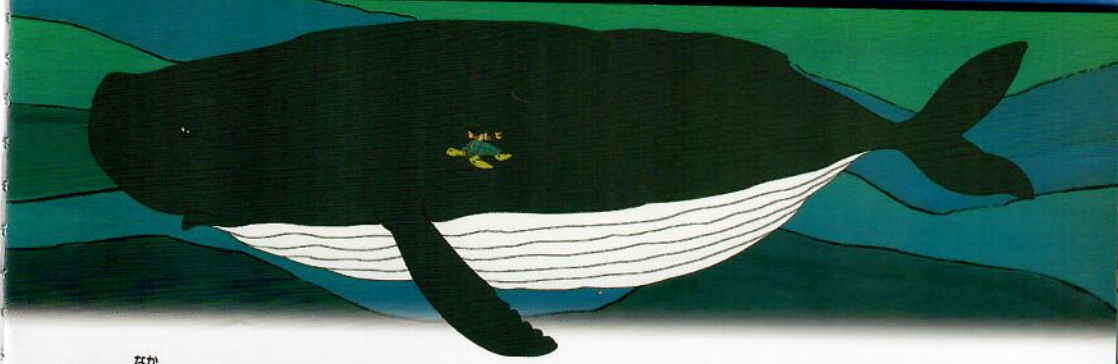
おおがめに きものを ひっぱられ、
たろうは うみの そこへ、そこへと、
もぐって いきます。

たろうは、いきをするのを こらえて いました。
じきに、いきぐるしく ない ことに
気が つきました。

ほっとした たろうは、おおがめの せなかに
つかまって かいちゅう さんぽを
たのしむ ことに しました。



Taro sank deeper and deeper into the sea with the large turtle pulling him by his clothes.
Taro had been holding his breath but he soon realized that he was not drowning.
Taro was relieved and decided to enjoy the underwater ride on the large turtle's back.



うみの中は、とてもうつくしいせかいでした。たろうのよこをイカのたいぐんがおよいでいきます。こんどは、山のように大きなクジラがたろうをでむかえてくれました。たろうは、はじめて見るうつくしいけしきに目を見はりました。おおがめは、どんどん、うみのそこへともぐっていきます。ちようちんアンコウのうすあかりにてらされながら、かいていのいわばをすずんでいくと、とつぜん、たろうたちの目のまえがあかるくひらけました。



The world in the sea was very beautiful. A large school of squid swam past Taro.
Next a large whale as big as a mountain came to greet Taro.
Taro stared in wonder at the beautiful scenery.
The large turtle dived deeper and deeper into the sea.
As the turtle swam among the rocks guided by the dim light of an angler,
Taro and the turtle suddenly arrived in a place that was open and well lit.



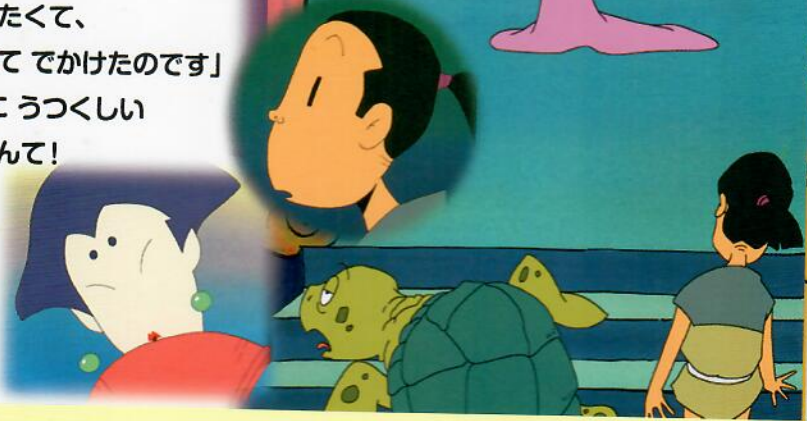
「あれが、りゅうぐうじょうです！」
たろうの目のまへには、とても
うつくしいやしきがならんでいまし
かいていのいわばの^{うえ}上にたてられた
いろとりどりのやしき。
たろうをのせたおおがめが、その
たてももの^{なか}中へとはいっていくと、
うつくしいおひめさまがむかえて
くれました。



“That is the Palace of the Sea Dragon.”

There was a line of beautiful buildings displayed in front of Taro.
They were colorful buildings constructed on rocks on the seabed.
When the large turtle entered a building with Taro on its back,
a beautiful princess greeted them.

「ようこそ、りゅうぐうじょうへ。
わたくしは、おとひめと申します…」
たろうのまえにあらわれた
おひめさまの うつくしさに、
たろうは、ただ おどろく ばかりです。
「せんじつ、たすけていただいた かめは、
わたくしで ございます。
そとの せかいを しりたくて、
かめに すがたを かえて かけたのです」
あの かめが、こんなに うつくしい
おひめさま だった なんて！
たろうは、またまた、
ビックリです。



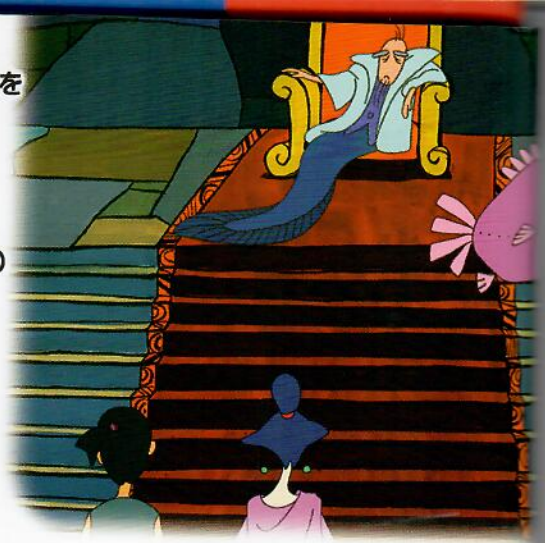
“Welcome to the Palace of the Sea Dragon. My name is Otohime.”

Taro was astounded at the beauty of the princess who appeared in front of him.

“I am the turtle you saved the other day. I wanted to see the world above and changed myself into a turtle.”

That turtle was this beautiful princess?! Taro was again astounded.

「さあ、こちらへどうぞ。ちちもおれいを
もうしあげたいとっております…」
そういって、おとひめは、たろうを
ひろまにあんないしました。
そこには、からだのはんぶんがさかなの
ようになっているりゅうじんさまが
おりました。



「たろうどの、むすめのおとひめをたすけてくれて
ありがとう。ここでゆっくりたのしんでいくとよい
なんと、たろうがたすけたのは、りゅうぐうじょうの
ぬしであるりゅうじんさまのむすめだったので。

"Please come this way. My father wishes to thank you in person."

So saying, Otohime showed Taro into a grand hall. There in the hall was a Dragon King. Half the body of the Dragon King was the body of a fish.

"Taro, sir. I thank you for saving my daughter Otohime. Please enjoy yourself here as long as you please." The turtle Taro had saved was none other than the daughter of Dragon King, the lord of this palace.

おとひめを たすけた おれいにと、たろうは、たくさんの もてなしを 受けました。
えんかいは、くる日も、くる日も、つづきました。
たくさんの ごちそう、うつくしい じじよにかこまれて、たのしい ばかりの 毎日まいにちです。
そして よるになると、見た ことも ない ような ふかふかの ふとんで ねむるのです。



Taro was treated handsomely in gratitude for helping Otohime.
Banquets continued day in and day out.
Delicious food, beautiful ladies in waiting surrounding him,
everyday was more than enjoyable.
And in the evenings,
Taro slept on blankets that were softer than any he had known before.



ゆめの ような 毎日^{まいにち}がつづいた
ある日^ひのことです。

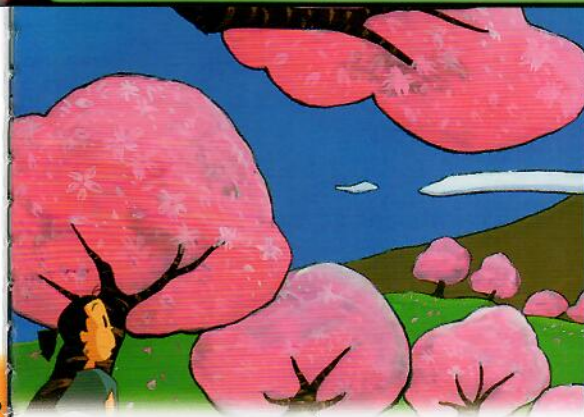
「ここは、ときを わすれて しまう へやで
たろうは、おとひめに、とある へやへと、
あんない されました。

「この へやでは、一年^{いちねん}を みじかい じかんで
たのしむ ことが できるのです。

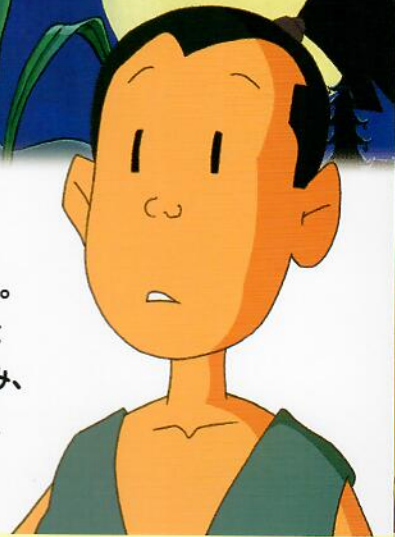
でも、つかいすぎると、とりかえしの つかない
こと になりますので、お気^せを つけ あそばせ!」
たろうは、ふしぎに おもって、
その へやの 中^{なか}へ はいって いました。



Everyday passed as if in a dream. "This is a room where one forgets time."
Taro was shown into a certain room by Otohime.
"One can spend almost one enjoyable year in this room in a short time.
But if this room is used too much, the damage cannot be undone so please be careful."
Taro was baffled as he entered the room.



そこは、ほんとうに見たこともないへやでした。
よつ
四つのまどからそとのふうけいを見わたすと、
はる なつ あき ふゆのさまざまなけしきが見えるのです。
の やま
野山にさくいちめんのさくらの花、よぞらにぽっかりと
つか
うかぶまんまるお月さま、さむざむとしたこおりのうみ、
すい
そして水めんをはねるさかな……。うらしまたろうは、
あし
ときのへやへ、なんども、なんども、足をはこびました。

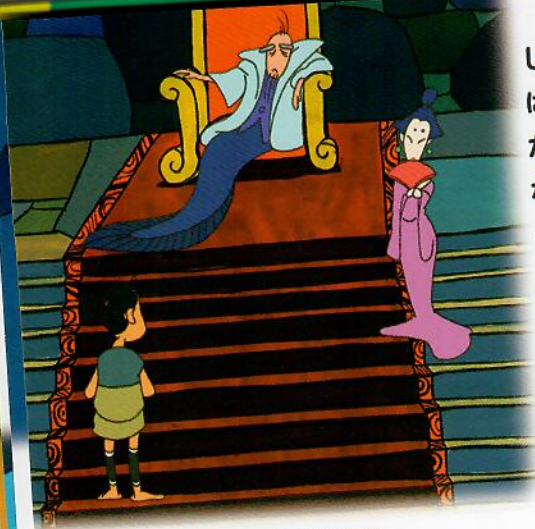


The room was certainly something he had never seen before.

Looking out from the four windows, one could see various scenes from spring, summer, autumn and winter.

Cherry blossoms covering the mountains and fields, a round moon floating in the night sky, a cold looking frozen sea and fish jumping at the sea surface.

Urashima Taro went again and again to the room of time.



「そんなこといわないで！
ここでたのしくくらしましょう！」
おとひめは、たいそうかなしみました。
でも、どんなにひきとめても、うらしまたろうの
きもちは、変わりませんでした。

しかし、りゅうぐうじょうがいくらたのしい
ばしょでも、たろうは、やがて、いえに
かえりたくなりました。
なつかしいこきょうのうみべの村、そこで
くらすなかまたち……。
よくあさ、たろうは、おとひめに
ふるさとの村にかえりたいと、うちあけまし



But as enjoyable as the Palace of the Sea Dragon was,
eventually Taro began to want to return home.

He remembered the village by the shore, he remembered his friends who lived in the
village. The next day, Taro confessed to Otohime of his desire to return to his village.

"Please don't say that! Let's live here in joy!" Otohime was overcome with sadness.

17 But however much Otohime tried to stop Taro from leaving, Taro's mind was made up.

おとひめは、たろうに こぼこを さしだし ながら いいました。
「しかた ありませんね…。 おもいで の しるしに、この たまてばこを おもち ください。
これさえ あれば、また、りゅうぐうじょうに くる ことが できる のです。
でも、あなた の せかいでは、ぜったいに ふたを あけては いけませんよ! ぜったいに!」
たろうは、おとひめから わたされた たまてばこを ふしぎそうに 見つめました。
「それでは、さようなら!」 うらしま たろうは、きた ときと おなじ ように、おおがめの
せなかに のって、りゅうぐうじょうを あとに しました。

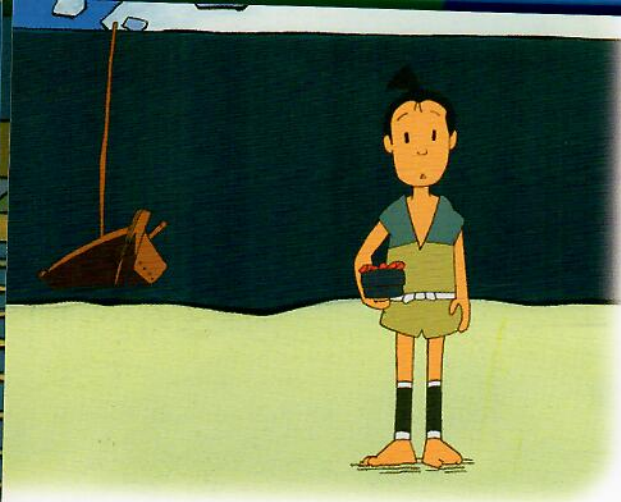


Otohime produced a small treasure box and said.

"Then it can't be helped. Keep this as a momentum and you will be able to come to the Palace of the Sea Dragon again. But never, never open this lid in your world. Never!"

Taro stared at the treasure box Otohime gave him wondering what it was.

"Goodbye, then!" Urashima Taro got on the large turtle's back as he had when he came and left the Palace of the Sea Dragon.



うみの^{なか}中を どんどん すすみ、
たろうと かめは、やがて たいよう^{した}下へともどって きました。
かめに うみの^{うへ}上まで おくって
もらった たろうは、ふねを こぎ、
ついに 生まれ^うこきょうである
はまへと かえって きたのです。
たろうは、おいそぎで わがやへと
むかいました。

すると、どうした ことでしょう。
たろうが すんでいた いえが あった
ばしょは、^{おお}大きな ^き木が はえ、
^{くさ}草ぼうぼうの はらっぱに なって
いたのです。



Swimming in the ocean, Taro and the turtle eventually returned to the surface and saw the sun. Taro, who was brought to the surface of the sea by the turtle, rowed his boat and returned to the shore near the village where he was born. Taro rushed to his home. But where his home had been, there was a field with a large tree and overgrown weeds everywhere.

よくみると、村のけしきもちがいます。

村に^{むら}くらしている^{ひと}人びとも、知らないかおばかりです。

すこしのあいだ、^{むら}るすにしていた^{むら}だけなのに、村は、すっかりかわってました。

じぶんがすんでいたいえもありません。

たろうは、どうしたことかと、あわてるばかりです。



Looking closely, the village scene was also different.

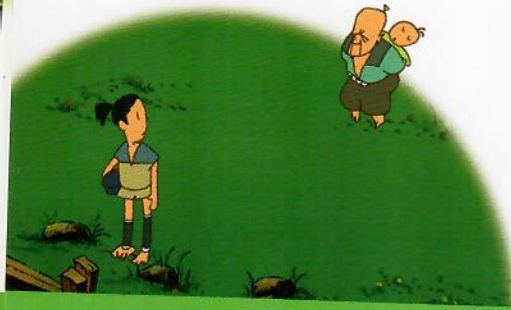
The people who lived there were people he did not know.

He had been gone just for a short while but the village had changed completely.

Even his house was now gone.

Taro did not know what was going on and became flustered.

「おわかいの、どうかされたのかの？」
おろおろしている たろうに、一人の ろうじんが はなし かけて きました。
たろうは、じぶんが すんで いた いえの ことを たずねました。
でも、ろうじんは、そこには だれも すんで いない ふるい いえが あった
だけ だ と いいます。それも、すうーっと むかしのはなしだと……。
たろうは、そのとき、はじめて 気づいたのです。
たろうが りゅうぐうじょうに いる あいだに、
この ちじょうでは、何十年も、何百年もの
ときが すぎて いた ことに……。



“Young man, is anything the matter?”

An old man spoke to Taro who was standing there not knowing what to do. Taro asked about the house where he had lived. But the old man said that there once was an old deserted house. And even that was long ago. Taro at last understood what was going on. While he was at the Palace of the Sea Dragon, decades or even centuries had passed on the surface.

こまりはてた たらうは、
「ぜったいに あけては ならない」と
いう おとひめとの やくそくを わすれ、
たまたまこの ふたを あけて しまいました。
すると、たらうのかみは、あつというまに
なくなり、こしの まがった おじいさんの
すがたに なって しまいました。



りゅうぐうじょうにも、ここにも、いばしょが
なくなった うらしま たらうは、
そのご、ゆくえしれずになつたとか……。
つるにかわつて、どこかに とんで いったとか……。
もう、むかしの おはなしです。 おしまい



Not knowing what to do, Taro opened the treasure box that Otohime had made him promise "never to open".

Instantly, Taro's hair was gone and he changed into an old man with a bent back. Urashima Taro, who had no place in the Palace of the Sea Dragon or here in this village, disappeared after this. Some say he turned into a crane and flew off somewhere. But that's also an old, old story.

The end

うらしまたろう

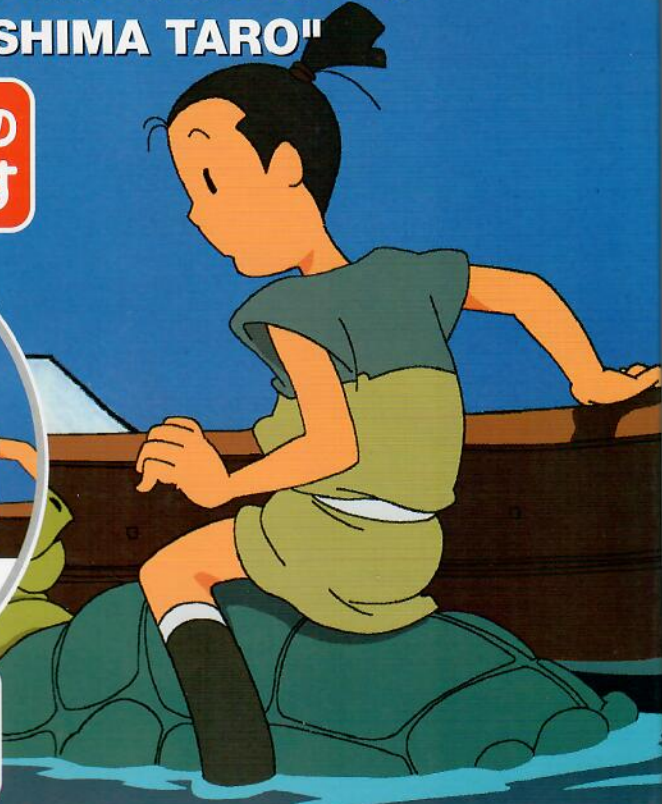
"URASHIMA TARO"

絵本は英語と日本語の
二ヶ国語で楽しめます



よいこのアニメー
おはなしCD
第一回：日本語朗読
第二回：英語朗読

おはなしCDつき
英語・日本語の二ヶ国語収録
(日本語：約15分／英語：約12分)



よいこのアニメー おはなしCD 読んで聴いて学ぶ英語 15 うらしまたろう "URASHIMA TARO" CD